

動労千葉破壊
80春闘破壊

のみを目的にデッチ上げ

動労「本部」革マル反動分子による津田沼支部に対する四・一五襲撃は、わが動労千葉一四〇名の固いスクラムの前に完全に失敗したのであった。そして、現在、彼らは、自らの失敗をとりもどすため、国鉄当局に対し、「動労千葉への厳正処分」を要求しているのである。わが動労千葉は、こうした「本部」革マル反動分子の権力・国鉄当局一体となった動労千葉破壊、八〇春闘破壊攻撃を粉碎した力で、国鉄三十五万人攻撃粉碎・三里塚・ジェット闘争貫徹にむけ、一層前進しよう。

津田沼特別班がストに参加するなどののは押し。

「本部」革命分子の強盗の論理を許すな！

「四・一五」の事実経過については、この間日刊動労千葉で明らかにしているように、「本部」革マル反動分子が投石や竹竿で動労千葉の部隊に襲撃してきたことは、もはや否定できない事実であり、現場に居合わせた者は、誰でも動労「本部」の暴力的襲撃を目にしているのである。

しかし、「本部」革マル反動分子はこうした事実を否定し、白を黒といいくるめ、国鉄当局に対し、「これらの行為は：昨年末の千葉鉄局報『暴力行為の絶滅について』の精神を足下にする言語道断のふるまい……貴側にあつては、これをあいまいにすることなく厳正な処置を：」と「申入書」をもって動労千葉に対する弾圧・処分を強行に要求しているのである。

しかし考えても見よ！ 動労千葉の八〇春闘決戦ストライキの拠点である津田沼支部に押入つて来たのは、他ならぬ動労「本部」革マル反動分子なのだ。

今回ばかりでなく、この一年余の間、昨年の四・一七津田沼支部襲撃をはじめ、ありとあらゆる動労千葉破壊攻撃を権力・国鉄当局の目の前で実行してきたのは、彼ら、動労「本部」革マル反動分子ではなかったのか。こうした彼らの「強盗の論理」をもってする国鉄当局への厳正処分・弾圧要求を絶対に許すことは出来ない。

「津田沼特別班」の結成は、動労千葉破壊・80春闘破壊のみを目的！

そもそも、「本部」革マル反動分子の四・一五津田沼襲撃の唯一のよりどころとなっている「津田沼特別班」は、一体全体いかなる経過で結成されたのか。

動労「本部」革マル反動分子は、八〇春闘がストなし春闘だときめ込み、「総評・国労の裏切り」として、この間、彼らが常套手段として用いていたすべての責任を他になすりつけるやり方で八〇春闘の爆発など全く考えていなかったのである。

↓ 彼らは千葉でのスト設定などは、最初からやる気はなかったのだ！「戦長会議決定」を伝える「勤労新聞」号外（4月10日発行）

ストライキ拠点

	地 本	拠 点
	仙 台	仙台・福島・郡山
関 東	新 潟 高 崎 宇都宮 水 戸 東 京	新運・長岡運・酒 高崎2・新前橋・ 宇都宮・小山電 勝田・水戸・原の 東京・上野・田端 甲府・東大宮・三 ・国府津・大船・
	長 野	上諏訪・長野・篠

津田沼特別班がストに参加するというのは押しかけの口実だ。

しかし、政府・支配階級の政治的反動化と攻撃の激化の中で、総評・民同指導部の「ストなし春闘」策動を突破して闘う職場生産点の胎動が大きく盛り上ってきたのである。こうした中で、動労「本部」革マル反動分子は、四月決戦ストライキがほぼ必至の情勢となった四月十四日、急きよ「津田沼特別班」なるものをデッチ上げたのである。

「津田沼特別班」は、学生革マル出身の嶋田某ら数名の裏切り分子と他局からの短期転勤者総勢十八名によって結成されたのであるが、そもそも、この十八名という数は、「熊本大会に千葉から七名が参加」などと大々的に宣伝した昨年八月の時点と全く変わらない数なのである。

このような「津田沼特別班」なら、八ヶ月前に結成してもよかったではないか。

何故に、八〇春闘四月決戦スト直前になって急きよ「津田沼班」をデッチ上げ（他局からの短期転勤者には、全く知らされていなかった）たのか。彼らの四・一五暴力襲撃の事実をもって、その真の目的が満天下に明らかとなったのだ。

すなわち、「津田沼特別班」のデッチ上げをもって、動労千葉破壊・津田沼支部破壊、すなわち、八〇春闘破壊を目的とした暴力的襲撃を行なう唯一のよりどころとせんとしたのである。

このような「本部」革マル反動分子による権力当局一体となった動労千葉破壊を許さず、国鉄三十五万人攻撃と対決し、反合・三里塚・ジュエッ闘争の正義性に自信と確信をもって闘い抜こうではないか。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！

日刊 勤勞千葉

80.4.24

NO. 411

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車會館)
(鉄道)二三五八・九・(公衆)四三(22)七二〇七